

表 2-3 総合評価基準

学習・教育 到達目標	達成度評価対象	各対象の評価方法と評価基準	総合評価 方法および評価基 準	
(A) 技術者としての基礎を身につけている。	(A-1) 数学を含めた自然科学の知識	力学、土木環境数学、応用数学、情報科学入門	左記の科目全ての単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること。
	(A-2) コミュニケーション能力	卒業研究 大学入門セミナー、技術文章作成技法、エンジニアリングデザイン、リサーチスキル、課題アプローチ技法、工学英語	卒業研究評価項目のうち「英語」、「概要」、「発表」の合計が60%以上 左記の科目全ての単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること
	(A-3) 自己学習能力	必修科目：大学入門セミナー 選択科目：構造力学Ⅰ演習、コンクリート構造工学演習、構造力学Ⅱ演習、地盤工学Ⅰ演習、水理学Ⅰ演習、地盤工学Ⅱ演習、水理学Ⅱ演習、水質計算演習	左記の必修科目全ての単位、および選択科目のうち3科目の単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること
	(A-4) 課題解決能力	卒業研究 必修科目：エンジニアリングデザイン、リサーチスキル、課題アプローチ技法、土木環境工学実験Ⅰ、土木環境工学実験Ⅱ 選択科目：(A-3)と同じ科目	卒業研究評価項目のうち「既往研究」、「課題設定、解決」、「締め切り」の合計が60%以上 左記の必修科目全ての単位、および選択科目のうち3科目の単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること
	(A-5) 技術者としての倫理	技術者倫理と経営工学、社会資本概論、環境概論	左記の科目全ての単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること
(B) 土木環境工学のどの分野でも活躍できる。	必修科目：建設材料工学、構造力学Ⅱ、地盤工学Ⅱ、水理学Ⅱ、 計画学系選択科目：「社会資本整備計画」・「都市計画」・「交通計画」の中から4単位(2科目) 環境工学系選択科目：「水環境」・「水処理工学」・「衛生工学」・「環境解析」・「環境生態工学」の中から6単位(3科目)	左記の必修科目全ての単位、および計画学系選択科目のうち2科目の単位、環境工学系選択科目のうち3科目の単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること	
(C) 社会の要請を察知し、理解して適切な行動ができる。	卒業研究 社会資本概論、環境概論	卒業研究評価項目のうち「テーマの意義」が60%以上 左記の科目全ての単位を取得していること。 各科目の単位取得条件はシラバスに記載の通り。	左記全てを満足すること	